

## 行政視察報告書

文教産業常任委員長  
南野 信郎 様

平成 29 年 11 月 28 日  
委員 重村 法弘

### ●行政視察期日、視察先

- 11 月 7 日（火） 大分県竹田市 「竹田式湯治の取り組みについて」
- 11 月 8 日（水） 福岡県久留米市 「久留米まち旅博覧会事業について」
- 11 月 9 日（木） 福岡県古賀市 「小、中学校での 2 学期制実施について」

### ●竹田式湯治の取り組みについて

竹田市は、大分県の西南部に位置し人口は約 22,000 人、総面積は 477 km<sup>2</sup>でその 69.2% が山林、原野でしめられている、近隣には別府、湯布院など全国的に知名度の高い温泉地をひかえている。

視察先決定の背景には、7 月 14 日長門市俵山で開催された、国民保養温泉シンポジウムで竹田市の首藤市長の講演を聴く機会があり、国民保養温泉としての地域振興、活性化に取り組んでいる施策を展開しているとの情報を頂いたからである。先に記したとおり、大分、熊本を中心に名高い温泉地がひしめく中で、竹田温泉がどう生き残っていくのか、また差別化がはかれるのか、温泉を中心とした地域振興を展開していくのか、模索の中から生まれたのが「竹田式湯治」といっても過言ではないようだ。

### 施策の概要

温泉療養を体験し、その効果を実感できる環境づくりを推進する、温泉療養地としての位置づけを明確にして、温泉を活用した予防医学を推進し、温泉を活用した地域活性化を目指すとしている

温泉療養を実施する場合の費用を一部補助する形を基本にしながら、現在展開されているが、平成 30 年 11 月には建設がすすめられているクアハウス（温泉利用型健康増進施設）も完成する予定との事、古来日本で生まれてきた「湯治」を今一度、現代の予防医学の観点から見直し、竹田温泉の再構築に取り組まれている。

本市の俵山温泉も古来からその温泉力「湯治」文化により形成された地区である、再整備にあたり国民保養温泉の指定を受けている意味、温泉という資源の活用方法、施策への展開に非常に参考となる視察であった。

### ●久留米まち旅博覧会事業について

久留米市は福岡県南西部に位置し、人口は約 306,000 人、福岡市から 30 km、福岡県を代表する都市の一つです。

視察先決定の経緯は、9月8日物観光センターで開催された「地域資源を活用した観光地域づくり」の中で事例紹介された取り組みです。誰もが自慢し、誇れるまちこそ観光客は訪れる「なにもない」といった否定的な感覚ではなく、あたりまえと思っていた地域資源を再発見し、磨きをかけ着地型観光として 80 ものメニューをつくりあげプログラム化しています。こうした体験交流を通じて、若者が技術習得のために移住したり、定住促進をはじめ、改めて久留米市のイメージアップや、認知度の向上につながっています。

### 久留米まち博覧会とは（通称：まち旅）

久留米に暮らす人々が、普段から慣れ親しんだ地元の歴史や自然、文化など地域資源を活かし磨き上げ、自らが訪れる人をもてなす体験交流型観光プログラム。

実施者は地元市民、自らがプログラムを企画し、自分たちで観光客をもてなしている、これまでの開催で、延べ 650 団体が実施参加している、農業、酒蔵、工場、名所旧跡をはじめ、病院や公共施設も参加している。当たり前前の施設を開放案内することで、日頃目にすることのない特別な体験へとつながる。メニュー 80 の決定は応募された中から企画会議プレゼンテーションを経て最終決定される。12 回の開催延べ参加人数は 17,000 二を超えるというから驚きである。

本市においても、着地型体験旅行は実施されているが、農業や漁業、民泊と、決まった視野しか実践されていない、交流人口の拡大、旅する観光客にまた訪れてみたい長門市に結びつけるには、幅広い長門市の魅力を紹介体験できるメニュー、プログラムの構築は今後必要な考え方との視察であった。

### ●小、中学校での 2 学期制実施について

福岡県古賀市は人口約 58,000 人、面積 42 km<sup>2</sup> 非常にコンパクトな自治体である九州最大の都市福岡市に近く、九州自動車道、鹿児島本線、国道 3 号線、など古くより交通のアクセスに恵まれた都市と言える

この古賀市では「日本一通いたい通わせたい学校を目指す取り組み」について視察した。様々な取り組みが実践されているが、今回は二学期制の実施を主として研修を受けた。

この二学期制の導入実施のねらいは、学期の期間を長くすることで、授業時数の確保や、教育課程の在り方について創意工夫することにより、学校の教育活動にゆとりを生み出し、その分補充学習や発展学習、きめ細かな指導と評価を行い、教職員と児童生徒がふれあう時間が増え、積極的な教育活動を行い、特色ある学校づくりを推進するものです。古賀市では平成 14 年から調査研究が始まり、平成 15 年二学期制を 1 校試行し、

16年度全小中学校導入に踏み切っています。

学校の教職員の繁忙が叫ばれる中、また小学校では平成31年度から英語教科のさらなる本格導入を見据えると、コマ数の問題もあります、メリット、デメリット多々の問題、課題はあると思いますが、今後調査研究にあたいする研修でした。